

平成 23 年度京都府立久美浜高等学校学校経営計画(計画段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校計画の重点 (短期経営目標)
<p>歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を生かし、地域の期待に応える教育を推進する。</p> <p>1 生きる力の育成と進路実現</p> <p>2 総合学科及び小規模校の特色を生かした指導</p> <p>3 専門教育の充実</p> <p>4 教職員の指導力向上</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 朝読書の通年実施による遅刻者の減少と授業への円滑な移行</p> <p>(2) 研究授業への積極参加と授業改善</p> <p>(3) 生活実態調査など新機軸の取組と共感関係に基づく組織的な生徒指導体制の充実</p> <p>(4) 面接、ガイダンス、小論文などのきめの細かい個別指導による進路実現</p> <p>(5) カウンセリングや特別支援学校との連携の充実による教育相談の充実</p> <p>(6) 図書館活動の充実と貸出冊数の最多更新</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 生徒の実力や現状を踏まえた授業改善、基礎学力の充実と進路実現</p> <p>(2) 基本的な生活習慣、家庭学習の充実を受けた家庭との連携とPTA活動の活性化</p> <p>(3) 教育相談、特別支援の充実に向けた校内体制整備や教職員研修</p> <p>(4) 生徒の活躍を発信する出前授業やボランティア活動などによる生徒の地域社会参加の充実</p> <p>(5) HP、久美高だよりなど広報活動の充実</p>	<p>1 学力向上フロンティア事業を活用して、基礎力の充実と成績優秀者の学力伸長を進めるため、教材を精選し、授業改善を図る。</p> <p>2 教職員の連携を密にし、規律ある学習環境を確保するとともに家庭学習の定着を図る。</p> <p>3 あいさつ、身だしなみの改善を図り、学習や部活動の目標達成に向けて努力する雰囲気高める。</p> <p>4 生徒同士、生徒と教職員の間に関係を築き、週に一度の生活実態調査により、問題行動の抑止及び早期発見に努める。</p> <p>5 1人1人の生徒の進路上の課題の解決に向けて、保護者と連携しながら支援を行う。</p> <p>6 学力の充実、進路実現、部活動の充実、地域との連携のために組織体制を整備する。</p> <p>7 生徒の活躍をタイミングよく発信する広報を充実する。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	諸会議の運営の工夫、事業推進や生徒の指導に係る時間の確保	<p>部長会議の開催を月2回以上行うとともに内容の精選を図り、部長・職員会議の時間の短縮を図り、生徒の指導時間を確保する。</p> <p>学力向上フロンティア校支援事業実施内容や方法を月2回の部長会議で確認し、円滑な推進を図る。</p>		
家庭・地域との連携	家庭・地域との連携による家庭学習時間の増加やボランティア活動の活性化推進	<p>家庭学習時間の増加を目指し、PTA進路指導委員会と連携し、「標語」等具体的目標づくりを行う。</p> <p>ボランティア活動推進のため、校内体制を確立するとともに、積極的に地域に働きかけ、活動者数増加を図る。</p>		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
P T A活動	役員会、委員会活動の充実	役員会の出席率を上げ、進路指導部、生徒指導部からの協力を得ながら、委員会活動を行う。		
	地区懇談会の開催	各会場で、昨年を上回る参加人数で実施する。		
学校図書	読書意欲の喚起	朝読書や学習支援を意識した本の購入や特集を行い、実りある読書への誘導を図る。		
	資料情報提供の充実	公共図書館との連携により、資料の質・量ともに充実を図り、各種のコンクール、ボランティア等、社会参加の情報提供、支援に努める。		
広 報	久美高だよりの発行、学校情報メールの配信	久美高だよりを学校行事等、タムリーに発行する。学校情報メールは、月末をベースに配信する。		
	ホームページの更新	校内からの情報の提供を受け、継続して更新ができるように取り組む。		
事 務 部	教員と連携した学力フロンティア事業の推進	経費執行を中心に教員と連携を図りながら事業に参画し、学校全体としての取り組みとする。		
	校舎耐震補強工事の円滑な実施	生徒の安全確保を第一とし、工事が円滑に進むよう、施工業者や校内教職員との調整を図る。		
教育課程	平成24年度入学生教育課程の編成	新学習指導要領における数学・理科の先行実施をふまえた教育課程を編成する。		
学習指導	質の高い授業づくり	各種の研修や研究・公開授業、教科会議での交流などを通して授業改善を進めるとともに、生徒の学習意欲を喚起する。		
	学力向上フロンティア事業の推進	推進委員会を中心に学力の充実に係わる各種取り組みを進める。		
生徒指導	いじめ・窃盗を許さない学校作り	教師のアンテナを高くすると共に、「今週の振り返り」を実施し、生徒の実態を早期に発見し、早期に指導をする。		
	中身と共に外見でも勝負する学校作り	身だしなみ改善チケットを使っての効果的な指導をする。		
特別活動・部活動	部員数の増加、全国大会での優勝の達成	積極的な勧誘及び、中学校との連携を強化する。		
	素晴らしい文化祭の実施	生徒の意識を高め、内容の検討、教師の指導方法の確立を目指す。		
進路指導	生徒の希望進路実現のための個別指導の実施	2年生全員面談・3年生就職希望者面談を実施する。 入退室のマナーを徹底する。		
	生徒が自ら進んで進路を考えるための働きかけ	進路マップの一層の活用を図る。 学年ごとの進路ガイダンスを充実する。		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
健康・ 安全教育	校内美化活動と環境美化の啓発	月ごとに掃除の重点項目を定め、校内美化に取り組む。		
	教育相談会議(特別支援教育を含む)の充実	速やかに生徒の状況を把握し、スクールカウンセラー及び専門機関の援助を得た教育相談を行う。		
人権教育	人権尊重を踏まえた教育活動の充実	各学年と連携し、各学年学期に1回の人権学習を実施する。		
	いじめの予防および早期発見	「今週の振り返り」を利用し、いじめ等の早期発見を目指す。		
1 年	高校生としての生活習慣の確立と学習習慣の形成	遅刻・欠席を減らす。挨拶をする。学習環境を整える。補習等の利用促進、部活動の推進、自己課題を把握する。		
	感性の磨きと想像力や行動力の養成	さまざまな分野で活躍する人物などを知る。感性に訴えかける人物などを通して想像力や行動力を養う。		
2 年	マナーの向上	規範意識を高める取組を増やし、特別指導を5件（5名）以内にする。 ----- あいさつ・身だしなみ指導を強化する。		
	学力の向上	家庭学習・学習習慣を確立させ、評定平均値を0.3ポイント以上向上させる。 ----- 「1人1資格（取得）」を目指し、取組を強化する。		
3 年	希望進路の実現	総合的な学習の時間を活用し、希望進路に応じた指導を推進する。 ----- 進路指導部、各教科と連携し進路実現を目指す。		
	身だしなみの定着	毎日のSHRを活用し、面接試験に向かう身だしなみ指導を行う。		
農場部	農場生産活動を通しての地域等との連携、授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの強化	校外で農作物の販売の促進を行い目標生産額を達成する。 ----- 地域へ久美浜高校農場部の取組をPRする。		
	農業関係諸機関・団体・地域の農業従事者との連携推進	久美浜町有線放送「みんなの農業教室」の放送を継続する。 ----- 積極的に農業関係者との交流を図る。		
福祉部	地域を支える介護人材の育成	介護福祉士国家試験受験資格の取得と介護職員基礎研修を修了させる。 ----- 目標の設定→実現への計画と実践→評価の過程を学ばせる。		
	豊かな感性と学力の向上	さまざまな体験活動を支援し感性を磨く。 ----- 家庭における学習習慣を確立させる。		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
国 語	基礎力の充実と進路実現に向けた指導	進学補習や基礎学力補充を実施し、また問題集等を利用して家庭学習の定着を図る。		
	言語活動の充実を図る取組の実施	地域の国民文化祭事業への参加を図る。 総務企画部と連携し、読書活動の推進を図る。利用率前年比150%を目指す。		
地歴・公民	授業内容の精選による基礎・基本を重視した授業の展開	生徒の学力状況を把握し、他教科との連携も図りながら基礎・基本を重視した授業を展開する。		
	生徒の興味・関心を引き出す教材開発	視聴覚教材や実物教材、調べ学習などの開発を進め、相互の交流を図る。		
数 学	基礎的・基本的な内容の確実な定着	前年度から行っている久美高標準テストなどを用いて学習活動の推進を図り、前年比10%アップを目指す。		
	指導法の研究・交流の促進と教科全体の指導力の向上	教科会を充実させ、授業参観を積極的に行い、授業や指導内容の交流を行う。		
理 科	授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの促進	視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業展開を工夫する。 実験や実習方法の工夫と改善に努める。		
	指導力向上への取組強化	公開授業を定期的の実施し、指導方法の交流を図る。		
保健体育	心身についての理解の促進と生涯にわたる運動への親しみの態度の育成	スポーツを通して達成感を体現させる。 計画的な研修を実施し、指導力の向上を図る。 健康的な生活習慣を確立をさせる。 部活動を活性化させる。		
	授業や体育的行事における事故防止と安全教育の徹底	事故を防止する安全教育を徹底し、安全に対する行動力を身につけさせる。 定期的に施設設備の安全点検を実施する。 事務部と連携し、施設設備の改善に取り組む。		
芸 術	生涯にわたる芸術を愛好する心情の育成	発表の機会を積極的に設定して達成感を味わい、より良いものを創りだそうという心を育てる。		
	学習環境の整備	芸術科実習費や教材販売を活用して授業に必要なものをそろえる。 芸術科教員間で連携を密にする。		
英 語	レシテーショングランプリ（暗唱大会）の成功	音声面の指導を充実させ、その延長線上に暗唱大会を位置付け、英文を覚える充実感、達成感を味わわせる。		
	国際教育の推進	コミュニケーション能力を伸ばし、海外とメールのやり取りなどの活動を行う。		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
家庭	一人の生活者としての自覚の保持	身近な課題を取り上げ、家庭生活への興味・関心を高める。		
	家庭生活を運営していく力の向上	課題やプリントの記入などをやりきる指導と評価の一体化をすすめる。		
農業	専門科目の授業・実習、農業クラブ活動を通しての教科指導・生徒指導の充実	将来、何らかの職に就くことを念頭に置き、はじめのある行動や、生産活動に望む心構え等を指導する。		
	新規生産科学系列希望生徒の意識改革と選択生の増加	1年生対象の説明会・希望生徒への農業実習体験会を実施する。		
福祉	資格取得の取組を通しての学力の向上	授業カードを活用した主体的学習を支援する。 学習ノートを提出させ家庭学習習慣を確立させる。		
	福祉現場実習の充実	実習担当者会議を開催し施設と学校の相互理解を深める。 巡回指導の充実と事前・事後学習の徹底を図る。		
情報	情報や情報技術を効果的に活用する能力の育成	ワードやエクセル、パワーポイントなど基本となる各ソフトの基本操作やコンピュータの適切な活用を身に付けさせる。 情報モラルの指導を徹底する。		
	授業規律を高める指導の徹底	コンピュータ教室の使用上の規約の遵守、提出物の締め切りの徹底、遅刻や無断欠席、忘れ物、私語等をさせない。		
商業	パソコンやビジネスに関する基本的な知識・技能の習得	ビジネス基礎や簿記では身近な例を取り上げ、生徒に興味を持たせると同時に、理解を深めさせる。 コンピュータを用いた実習科目では、基本操作から反復して指導し、ビジネスで通用する技能を体得させる。		
	学習意欲を高めるための資格取得などの目的意識の設定	情報処理検定合格などの目標を提示し、合格できる力を養う。同時に目標に向かって努力することの大切さ、楽しさを実感させる。		